

第45 回 CMS 学会

日機装 smart&intelligent 搭載装置の使用経験

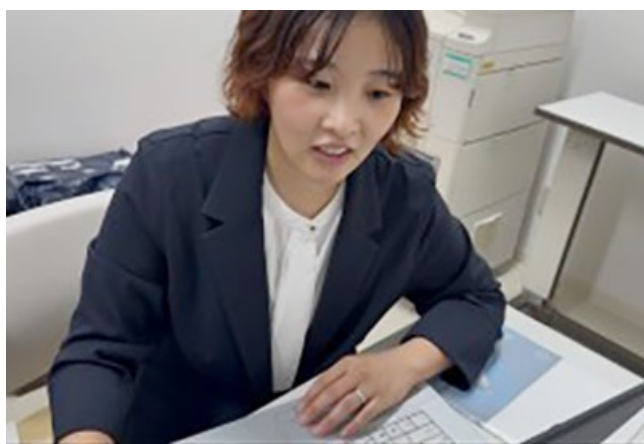
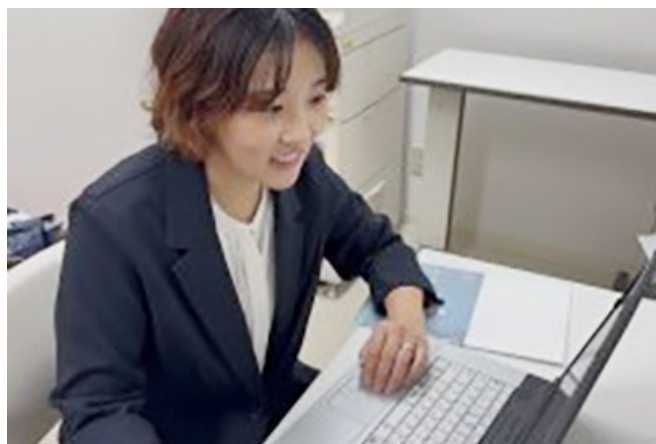
① 今回の学会・研修の内容

学会内での研究発表や意見交換を通じて見えてきたのは、医療の高度化・効率化が進む一方で「本当に患者のためになっているのか」といった根本的な問いかけでした。これらの気づきは、今回の CMS 学会のテーマ『何必～医療の価値を再定義する～』とも深く重なるものであり、多くの発表がこのテーマを現しているように感じます。「何必」には常識に捕らわれず考え直そうという意味があります。当たり前だと思っていた医療のあり方を再考することは、CMS グループがこれからの医療をより良いものにしていく上で、非常に重要だと考えています。

② 今回の学会に参加した感想や印象に残った発表

今回、初めて演題発表を経験させていただきました。テーマ設定から資料収集、考察に至るまで、自分たちで答えを導き出す過程は、臨床とは異なる難しさがある一方で、大きな達成感を得ることができました。また、研究を通して、日機装社製の Smart&Intelligent 連携搭載装置を見直す機会となり、機器に対する理解も一層深まりました。今後は、この経験で得た知識を日々の臨床に活かすとともに、患者様により良い治療を提供できるように、新たな課題にも前向きに取り組んでいきたいと考えています。

エイトナインクリニック 一般 水野佳那 太田医療技術専門学校



日機装smart&intelligent搭載装置の使用経験

I.研究目的

当院では2021年から2023年にかけて、全透析機器の入れ替えを行った結果、日機装社製のsmart&intelligent連携（以下Si連携）が実施可能となった。このSi連携が有する【透析用剤溶解量の自動制御】、【透析用監視装置への消毒用薬液供給の効率化】等の機能により、透析用剤、消毒用薬剤、水道等の使用量の削減が期待された。今回、全透析機器入れ替え前後の透析用剤、消毒用薬剤、水道等の使用量の変化を比較、評価した。

II.研究方法

透析用剤使用量、消毒用薬液使用量、水道使用量をそれぞれ機器入れ替え前後の1年分を集計し比較検討した。

III.結果

透析用剤の使用量は約1%増加した。水道使用量は約3%減少した。消毒用薬剤使用量はそれぞれ約40%減少したが生菌・ETは共に検出されなかった。

IV.考察

透析用剤Dドライの使用量はSi連携導入前では手動操作での溶解量の調整をしていたこともあり、期待する変化が見られなかった。また、午後の患者様用のプライミングを生食からオートプライミング、透析液プライミングへと変更した為に増加したと考えられる。水道使用量の減少は、機器入れ替え時のループ配管、再循環ユニットの廃止により配管内ボリュームが減らせたこと、Si連携の流量自動算出の機能、洗浄剤使用量減少に伴う希釈水の減少により実現できたと考えられる。サナサイド使用量、ECO使用量については希釈倍率を変えずに減少できていたことから、Si連携の薬液供給量調整の効果があったと考えられる。

V.結論

水・透析用剤・消毒薬液においてSi連携導入は全体的なコスト削減に効果があると考えられる。しかし、条件としてループ配管、再循環ユニットを考慮した評価ではないため今後は、それらを考慮したうえで水・透析用剤・消毒薬液を評価し、比較する必要があると考えられる。

引用文献

1) 吉見整、伊東志郎、丹藤俊次、：日機装社製装置間連携における洗浄消毒剤濃度確認による経済性の検討。第49回日本血液浄化技術「学会学術大会会誌 2023-9